

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 元 年 12 月 10 日

事業所名 こどもプラス鍋島教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	3		・一つの教室を、運動スペースと静養スペースとに分けて使っている。
	2	職員の配置数は適切である	3	1	1	・職員配置としては十分であるが、送迎と待機の人数は不足していると感じる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			5	・教室内はクッションマットを敷いてフラットになっている。 ・入口は階段になっている。トイレは狭く、介助がスムーズにはいかない。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4		1	・職員のミーティングを毎日行っている。 ・研修などがあれば参加したい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	2		・アンケートの結果は職員が周知するとともに、ホームページ上に掲載し、保護者へは書面にて配布している。 ・意見をもとによりよい支援ができるよう改善、工夫している
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	2		・ホームページに毎年公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4	1	・外部評価を受け、改善をしていきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	1	3	1	・なかなか研修に参加する機会がないので積極的に参加していきたい。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	1		・まとまった時間を取って話ができていないので、しっかりと時間を設けて作成をしていきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			・学校や保護者との連携を意識し、活用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		・毎日、職員全員でイベントの考案をしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1		・他教室の活動も参考にし、様々なプログラムができるようにしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1		・ミーティング時に話し合いをし設定をする。長期休暇、休日には特に趣向を凝らしたプログラムになるよう工夫している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	2	3		・できていると思う。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			・利用開始前には、必ずミーティングをし打ち合わせをしている。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5			・毎日終了後にミーティングをし、その日の振り返りをしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			・記録を取る際にはできるだけ状況や状態を細かく記入しよう心掛けている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	2		・できている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	3	2		・固定化しないように様々なプログラムを組み合わせで行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1		・管理者が参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	4	1		・学校によっては連携に差があるが、引き取りの際になるべく情報交換をすようになっている。加えて保護者から学校の予定などの連絡事項を伝えていただくようになっている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		4	1		・現在は該当する児童がおらず、前例がない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1		4		・利用開始する前に情報交換、共有している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			1	4	・該当児童がいなかったが、それを踏まえた支援を今後していきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2			3	・今はできていないので参加していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4		1	・今後、機会を増やしていきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		1		4	・参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5				・送迎時に伝え合うようになっている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			1	4	学校送迎時に学校での様子を聞き、自宅送迎時には自宅での様子を常に聞き、情報交換を常に行うようになっている。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	2	3		・契約時に説明をしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1		・管理者が電話や、面談にて助言等を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			5	・現在はできていないので、今後やっていけたらいい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			・管理者が対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1		・毎月のお便りを作成し、配布している。
	35	個人情報に十分注意している	5			・鍵付きの書庫を使い十分注意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	2	3		・送迎時に詳しく話をするように意識している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	1	・主催した事はないが、他の行事に参加するかたちで、交流の機会を設けている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2		・防犯や感染症に関してのマニュアルの周知はできていないので、徹底していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			・年に2回の訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	2	1	・マニュアルを用いた教室内での研修は行っている。外部での研修も受けていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	4		・該当児童がいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			5	・該当児童がいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			・ヒヤリハットがあった場合は全員でミーティングを行っている。